

ファイル名：	ワンダーフォーゲル部（報告）	作成日：	22/4/25									
報告書	22/4/23	～	22/4/23									
		作成者：	神藤 駿介									
山域名	西上州			山行形態	日帰り							
日程・コース	8:30 鹿岳登山口駐車場～8:45 山行開始～8:57 大久保～9:34 天狗峠(小休止)～10:13 四ツ又山(小休止)～11:15 マメガタ峠(小休止)～11:53 コル手前(小休止)～12:11 鹿岳のコル～12:23 一ノ岳(小休止)～13:04 二ノ岳(休憩)～13:30 下山開始～14:27 鹿岳登山口駐車場 1日を通して晴れ、気温も高く汗をかく山行でした。この気温感は今年初だったので、熱中症など十分留意しこまめに水分補給タイムをとりました。											
メンバー	NO	氏名	性別	NO	氏名	性別	NO	氏名	性別	NO	氏名	性別
	1	白川 梓	女	2	新井 梓	女	3	前田 光教	男	4	神藤 駿介	男
	5			6			7			8		
	9			10			11			12		
	13			14			15			16		
	17			18			19			20		
	リーダー	白川 梓		サブリーダー	新井 梓		その他	医療：前田 光教 記録：神藤 駿介				
<b>特記事項</b> ・天気 晴れ ・四ツ又山以降、岩場につきヘルメット装着 ・マメガタ峠以降、チェストハーネス装着 ・「山と高原地図」には、駐車場は10台の場所と2台の場所があるとの情報。10台のほうは行ってみたらもう少し広くて、15台は駐められそうな感じ。簡易トイレも設置あり。2台の駐車場の奥に、さらに地元の方が資材置き場を駐車場として解放してくれていて、こちらは5台ほど駐められそうでした。												
<b>ヒヤリハット</b> ・鎖場とロープ場が多数あり危険を伴う ・危険箇所を過ぎた直後も実は道幅が狭いというような場所が幾度もあり、気を緩めてはならない（危険箇所を過ぎた直後がもっとも危険）												
<b>その他</b> ・「鹿岳」は「かなたけ」と読む												

## 白川

アカヤシオが見頃ではないかと思い今回の企画を立てましたが、今年は旬が早かったため満開ではありませんでした。

ただ、山桜や朱色のヤマツツジはぼつぼつ残っていて、これはこれで春山の風情がありました。

天気が思わしくなかったので土曜に前倒しましたが奇跡的に全員のリσκεOK。

行動中の足並みも揃い、鎖場通過の練習もできてよかったです。

楽しい一日をありがとうございました。

## 新井

白川さんによる西上州企画。登山口からは杉植林の沢沿いを歩き、稜線に出ると広葉樹林の新緑！！ドウダンツツジやミツバツツジも見頃でした。道の途中には天狗像や不動明王、四ツ又山の頂上にも宝珠のようなものをもった像がありました。

鹿岳へ向かう道はロープや鎖場があり、チェストハーネスで鎖場通過の練習をしながら登りました。鹿岳は下から見ると巨大な岩峰で、どこから登るんだろう。。と言う感じでしたが、コルから取りついても梯子もあり、わりとすぐに一ノ岳、二ノ岳に登ることができました。どちらのピークも周囲が一望でき、妙義や荒船、浅間などが見渡せます。全体として、左右の切れたヤセ尾根がところどころ出てくるので、すれ違いには十分留意した方がよい山です。

神藤さんと前田さんが岩場を通過するたびにワクワク顔なのが面白かった。帰りはタイル画の浴室が超レトロな大島鉱泉へ立ち寄りしました。

メンバーのみなさん、1日ありがとうございました。

## 前田

兼ねてより挑戦しようと思っていた「鹿岳」、厳しい岩場・鎖場を楽しみに参加させていただきました。

また、アカヤシオの他、ツツジや、山桜にと花を愛でるといふ、これまでにない別の楽しみも享受できました。

終始斜度が厳しく花を見上げる 余裕のない中、花の名前を教えてもらいながら、膨らむ雑学に、学びのある山行でもありました。

鹿岳は見るからに険しそうな山容でしたが、鎖場に慣れていれば、思う以上の険しさを感じませんでした。

ですが、今回はスリングとのハーネスを利用し鎖場を通過する練習をし、足場の悪い中でカラビナを架け替える作業は、慣れないこともあり、手ごわい、足が疎かになることがありました。

カラビナの架け替えに集中して危険になるくらいなら、ない方がよいとも感じましたが、より厳しい場面で実践できなければ意味がないため、自分にとって余裕のある鎖場で何度も実践して慣れておくことが重要だと改めて実感しました。

まだこれからも多くの企画が待ち受けており、楽しみにしております。

## 神藤

今回の目的地「四ツ山・鹿岳」は実は全く聞いたことのない山でしたが、「鎖場ロープ場たくさんでアスレチック感のある山」という白川さんの説明を聞き、行く他なくなりました。実際に行ってみると、一面の新緑とツツジを始めとする花々、外から見たらどう登るのか意味不明な鹿岳の山容、苔むした鹿の頭蓋骨など、最初から最後まで全く飽きることはないとても充実した山行でした。また、今回は鹿岳の鎖場にてチェストハーネスを用いたセルフビレイの練習を行いました。山でロープを使って移動するのは初めてだったので苦労しつつも、なんだか凄いことをしている感に少年心をくすぐられました。この経験を今後より難しい山行に活かしていきたいです。

これまでは百名山をはじめとする有名な山ばかり歩いてきましたが、今回のような誰でも知っているわけではない（西上州のアイドルらしいので、無名の山と言ってはならない）山にも大きな魅力が眠っているということに気付かされ、もっといろいろな山を楽しみたいと思わせてくれるような山行でした。

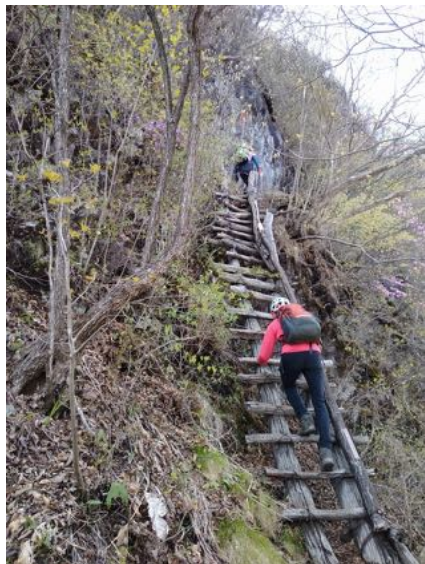
登山口入ってすぐに鹿の頭蓋骨が苔むして  
いた。さすが鹿岳？



四ツ又山頂上付近。後ろに映るのは鹿  
岳（向かって左から一ノ岳、二ノ岳）。  
どう登るのか全然分からない。



不安になるハシゴ。



セルフビレイの練習。



鹿岳（二ノ岳）頂上にて。  
抜群の開放感。



帰りに寄った大島鉱泉。レトロな雰囲気。  
シャワーがなく、タライで全てを  
済ませる。

